三重県立子ども心身発達医療センター 広報紙

カラフル

2023.9 発行
No.11

目次

P1 …三重県での地域支援体制について
P2 …「子どもの食べる機能の発達を支援します」
P3 …入院中の学校です（あすなろ分校）
P4 …センター紹介 【臨床検査】

カラフルとは、個性豊かな子ども達がその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混じって新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

三重県における地域での支援体制について

～ 発達障がい児地域支援ネットワークの構築に向けて ～

三重県では、県内に生まれ育つすべての子どもたちの発達保障・子育て支援をめざして、2009 年度より「市町の途切れのない支援システム」の構築を推進し、各市町と協働しながら、以下について取り組んでいます。

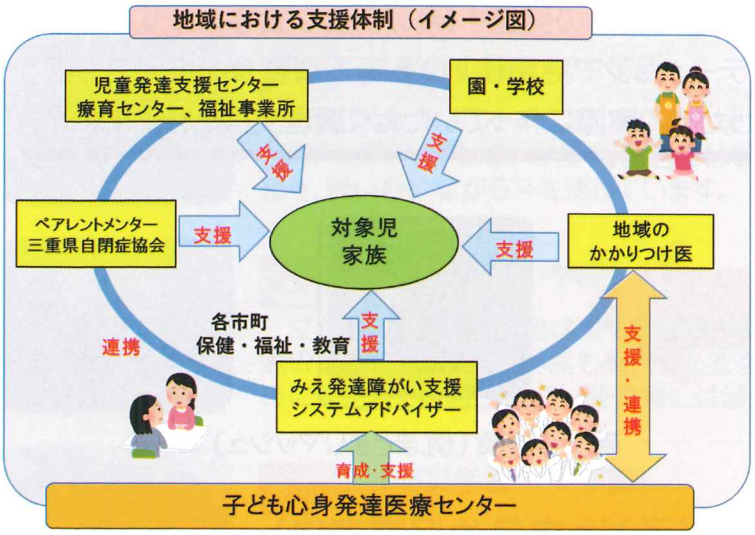
① 市町における発達総合支援室（保健・福祉・教育のワンストップ窓口）・機能の設置
② 「CLM（チェックリスト in 三重）と個別の指導計画」※1 による保育所・幼稚園での早期発見・支援
③ みえ発達障がい支援システムアドバイザー※2 及び「CLM と個別の指導計画」専任コース研修

こうした取組により、各市町の窓口において在籍するアドバイザーが相談を受け、地域の身近な機関で適切に支援し、その子なりの育ちを保障することが可能となってきました。

一方、子ども心身発達医療センターでは、発達の遅れ等で、早期に受診を希望される方が増加し、医師の増員や緊急初診枠を拡大するなどして対応してまいりましたが、それでも初診予約がとりづらく、予約後も受診まで待っていただく期間が長いため、大変ご迷惑をおかけしています。

センターでは、2020 年度より地域の小児科医を対象に、疾患や「市町の途切れのない支援システム」によるアドバイザーの役割、地域のネットワーク事業等に関する研修会を実施し、地域で暮らす子どもが身近な医療機関でより早期に直接的な支援が受けられるよう取り組んでいます。

今後も、こうした研修会を継続するとともに、引き続き市町をはじめ関係機関の皆様と協働し、「子どもたちが、身近な地域で早期に適切な発達支援が受けられ、健やかに育つこと」を目標に、地域におけるネットワークの構築を支援していきたいと考えています。



※1 【 CLM と個別の指導計画 】
子どもの育ちを見極め、
適切な支援を行うためのツール

※2 【 みえ発達障がい支援システムアドバイザー 】
センターにて市町の保育士・保健師・教員が 1 年間（CLM コーチは半年間）研修、その後アドバイザーや CLM コーチとして市町での支援の要となる。今年度は 4 名が研修中。
（四日市市・亀山市・菰野町・度会町の保育士）

★ 子どもの発達が気になる場合、まずは市町の発達総合支援室（保健・福祉・教育のワンストップ窓口）にご相談ください。

「子どもの食べる機能の発達を支援します」

～摂食機能療法～

当センターでは、子どもたちが摂食嚥下機能を獲得する過程で経験する様々な課題に対して、小児の摂食機能療法を通じて評価・相談・支援を行っています。当療法に携わる言語聴覚士は、食事を通して育まれるコミュニケーションにも目を向けながら、食べる機能の発達を促す支援を目指しています。

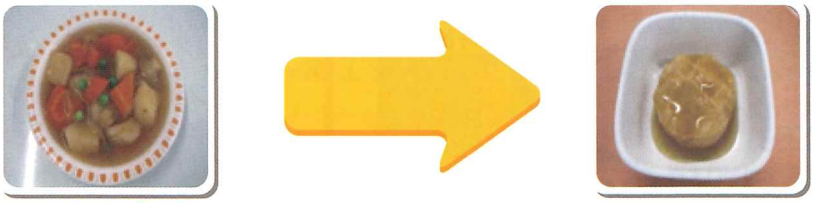
当センターの摂食機能療法の特色

1 乳児期からの介入 …離乳食開始前後など、1歳未満の子どもの受診も多くみられます。この時期は食事に関する悩みを持つ保護者も多く、早期介入することで発達を促進するとともに、保護者の不安軽減にもつなげます。

2 嚥下造影検査（VF）などの検査評価 …飲み込みの様子は外からの観察では見えない部分が多いため、普段の食事場面の評価だけでは不十分なケースがあります。嚥下造影検査を行うことで、誤嚥の有無、食べ物の流れや口腔器官の動きを確認することができます。食形態や姿勢による嚥下状態の変化を観察することで、適切な食環境を整えるための評価ができる利点があります。

嚥下造影検査室

3 管理栄養士や調理師と連携した食事支援 …食べる機能の発達を促し、安全な食事をすすめる上で、食形態の調整はとても重要です。リハビリテーションで活用している嚥下調整食を自宅でも調理できるように、管理栄養士・調理師と連携した上で実際に作っていただく調理支援を行います。



嚥下調整食（例.まとまりマッシュ）

今後も、多職種と連携しながら、『食事』が子ども自身や保護者にとってより良いものになるように一緒に考えていきます。

入院中の子どもたちが通学している学校を紹介します。今回はあすなろ病棟（児童精神科病棟）の子どもたちが通学しているかがやき特別支援学校あすなろ分校です。

かがやき特別支援学校あすなろ分校

本校は、併設する三重県立子ども心身発達医療センター児童精神科病棟に入院している小学生と中学生が通学する病弱教育部門の特別支援学校です。医療と福祉機関が連携した教育環境のもとで、子どもたちが学び合い、教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子ども自身が自分の願いや目標を達成できるように指導・支援しています。

【一日の流れ】（中学部の例）

時　間	時　限	月	火	水	木	金
8:30 ～ 8:50	登校・朝の会					
8:50 ～ 9:40	1限	社会	国語	国語	国語	数学
9:45 ～ 10:35	2限	数学	美術	英語	数学	理科
10:45 ～ 11:35	3限	英語	理科	理科	社会	英語
11:40 ～ 12:30	4限	総合	体育	数学	理科	体育
12:30 ～ 13:20	帰棟・昼食					
13:20 ～ 14:10	5限	音楽	社会	道徳	英語	国語
14:15 ～ 15:05	6限	体育	自立活動	社会	技術	特活
15:05 ～ 15:15	清掃･帰りの会・下校					

行事や授業の様子

「春の遠足」（小学部）

中勢グリーンパークに向かうバスを途中で降り、目的地の公園までの道のりを集団のペースに合わせて歩きました。新緑に包まれた公園では、遊具やボール等で友だちや教員と声をかけ合って遊び、楽しい思い出となりました。

「体育の授業」（中学部）

体育ではバドミントンに取り組んでいます。ケガをしないよう準備運動から始まり、基本の練習、試合へとステップアップしていきます。試合では競技ルールに従って、お互いに全力を尽くして白熱したラリーが続き、競い合いながら汗を流しています。

「文化祭」（小学部）

文化祭は、日頃の学習成果を保護者や病棟の職員など多くの方々に向けて発表する場です。ダンス発表の冒頭には、授業で何度も練習した衣装の帯結びからスタートし、曲に合わせて小学部全員が一生懸命にダンスを披露しました。発表後には頑張りを褒めてもらい達成感を味わうことができました。

「防災学習」（中学部）

防災学習の一環として、起震車による東日本大震災の震度7の揺れを実際に体験し、命を守る行動の大事さを学びました。その後、教室で液状化実験を行い、振動によって地盤が液状化して建物や柱が倒れる様子を観察し、災害が自分たちの生活に及ぼす影響について考えることができました。

センター紹介

臨床検査

病院の検査というと皆さん血液検査や尿検査などを思い浮かべることが多いと思われますが、児童精神科の入院病棟がある当センターでは、独特な検査も行っています。

『朝、何となく起きづらいなあ』　ついつい寝坊しちゃう。
『午前中は調子が悪い』　だるい　立ちくらみがする。

入院中のお子さんにしばしばみられるこういった症状、「起立性調節障害」は自律神経系の不具合で身体の調節がうまくいかなくなり生活に影響をおよぼす疾患です。
「新起立性試験法」は心電図を記録しながら　心拍数や血圧測定し、自覚症状もあわせて『起立性調節障害』の判定を行います。

『学校に行きたいけど行けない…午後なら…』
悩んでいるお子さんをサポートできるよう検査を行っています。

もちろん、脳波検査は主にてんかん・精神遅滞などの診断やフォローに、血液検査・尿検査は健康管理や投薬調整のために行われ、適切な治療に活用されています。

◇ 一見、よくある心電計ですが・・・

お子さんには怖いイメージのある検査室ですが、
ちょっとした工夫もしていますよ。

広報委員より

コロナは第5類になりましたが、まだまだ油断できません。
引き続きの感染防止対策にご協力願います。
広報委員（野口・大場・瀬田・中根・板崎）

三重県立子ども心身発達医療センター
〒514-0125　三重県津市大里窪田町340番5
電話　059-253-2000（代）
FAX　059-253-2031
URL　https://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/